

蟹ヶ谷古墳群現地見学会

平成 28 年 3 月 5 日

古墳群の概要と調査の経過

蟹ヶ谷古墳群は、高津区蟹ヶ谷の神庭特別緑地保全地区（神庭緑地）の中にある古墳時代後期の古墳群です。3 基の古墳がありますが、このうち 2 基は円墳で、1 基は市内で唯一現存する前方後円墳であることがわかりました。ただしこれまで調査を行ったことがなく、古墳の規模や年代などの詳しい情報は分かっていませんでした。

そこで川崎市では、多摩川流域遺跡群研究会（専修大学・日本大学）と連携して 5 年計画で蟹ヶ谷古墳群の調査研究を行い、川崎市の古代史の解明に取り組むことになりました。

4 年目にあたる平成 27 年度は、2 月 25 日～3 月 18 日まで発掘調査を実施し、1 号墳の墳形、2・3 号墳の規模の確認を行います。

なお古墳群の周辺を踏査した結果、古墳の可能性のある高まりを新たに確認しました。

発掘調査の概要

1 号墳

平成 24 年度の測量調査の結果、1 号墳は前方後円墳であることが確認されました。現存する墳丘の長さは約 27m です。後円部が削られているので、実際には 30m 以上の墳丘だと推測されます。平成 27 年度は、前方部の確認に力をいれ、前方部の形態を明らかにしました。さらに今年度は、溝から古墳が築造された当時のものと考えられる土器が出てきました。今後の研究により、古墳が作られた時期を、この土器から知ることができます。

2 号墳

2 号墳は、直径約 13m の規模でした。しかし、発掘調査の結果、墳丘から離れた場所から溝が見つかりました。

3 号墳

3 号墳は、南北約 9m、東西約 11m の規模でした。3 号墳は、墳丘の西半分が傾斜が急で、当初に作られた墳丘がかなり削られているとみられます。今回のトレンチにより、墳丘から大きく離れた場所から溝が見つかりました。これによると、直径 18m の円墳であった可能性が高まります。

今後の調査研究

来年度は、5 年計画の最終年度となります。4 年間の調査成果と課題をまとめ、蟹ヶ谷古墳群が、川崎市域の古代史のなかでどのような役割を果たしたのか報告書にまとめます。これについては、また地域の皆様にご報告する予定です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

蟹ヶ谷古墳群発掘調査団・川崎市教育委員会

問合先 川崎市教育委員会文化財課 044-200-3306
川崎市市民ミュージアム学芸室 044-754-4510